



“Dr. ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”

No. 21 〈作業環境不備〉

タイトル：想定外？ 現場は常に同じじゃない！

【事例】

運転員は、定期検査中で実施している作業のため、バルブの操作を指示された。バルブの操作が、系統上影響を及ぼさない事を確認し、バルブの操作の為に現場へ向かった。いざ、現場に着いてみると、足場が建てられており、バルブの操作が困難な状況となっていた。

【ヒューマンファクターの視点から】

現場の環境や機器の状態は常に変化しています。しかし、人は長年の経験や知識より判断し、今も同じ状態だと考えてしまいます。例えば、普段は流体が通っていない配管が、試験などでたまたま高温状態となっている、普段は足場がないが、作業のための仮設の足場が組まれている等は、イレギュラーな状態であるため、気付きにくいです。

従って、パトロールや業務を実施する際には、現場の状況はさまざまな要因で変化しているので、これを認識しなければいけません。普段から環境は変化し続けている意識を持ち、対応しなければ、作業を実施できないあるいはエラーを誘発することになりかねません。

特に定期検査中においては、様々な作業が錯綜しており、現場の状況は時々刻々変化しているため、作業前には必ず事前確認やTBMを行い、想定したことと同じ現場状況かを確認して、確実に作業を行いましょう。

特に、頻度の少ない操作や久しぶりの操作においては、操作経験者等と事前にノウハウの情報共有を実施するとともに、かもしれないという危険予知の感受性を高めて再発防止に努めることも重要です。

**作業前には事前確認やTBMを行い、
万全の準備で確実に作業を行いましょう。**